

差別のない明るい未来へ

横浜共立学園中学校 3年

むらまつ さき
村松 咲季

人種差別。それは人を肌の色や民族、性別などによって相手に不当な扱いをすることだ。黒人差別やアジア人差別など、数多くの差別は今も続いている。勿論、日本も例外ではなく、アイヌ民族や在日朝鮮人への差別や部落差別が起きている。こうした差別をなくし、世界を平和に近づけるためにはどうしたら良いのか、自分の海外での経験を通して考えてみた。

私は小学校の頃の数年間、シンガポールに住んでいたことがある。シンガポールは東京 23 区程の小さな島に、中華系、マレー系、インド系など、様々な民族が住む多民族国家だ。彼らは異なる宗教や文化、歴史を持ちながらも民族同士の対立や差別はなく、平和に暮らしていた。シンガポールでは中国の旧正月や仏教のベサックデー、キリスト教のクリスマスなど、それぞれの宗教、民族にとって大切な日が国民の祝日となっている。皆シンガポールに住む同じ国民として、互いの民族の祝日を共に祝っていた。祝日が近づくと、街が旧正月の飾りで華やかになったり、大きなクリスマスツリーが飾られたりと、街の景色がくるくると変わっていった。こうした街を歩いていると、様々な民族の文化や歴史に触れ、この国の多様性をとてもよく感じられた。互いの民族の文化や宗教を認め合って暮らすシンガポリアンの生活を間近で見て、驚き、そして素晴らしいと思った。

ある時、家族とタクシーに乗っていると、タクシーの運転手さんに「Hello, how are you? Where are you from?」と声をかけられた。私は学校で習った英語で

「I'm fine. We're from Japan.」

と答えた。私は英語が苦手だった上に緊張で声も小さくなってしまったが、頑張って伝えようとする、その運転手さんも私の英語を理解しようとしてしっかり聞いてくれた。そして私が日本人だと知ると、

「Oh, Japan! Pikachu, right?」

と、海外でも有名な日本のアニメ「ポケットモンスター」にでてくるピカチュウの声真似をしてくれた。私はほん

の少しの簡単な会話だったが、自分の英語が通じたことに感動した。また、日本が誇る「アニメ」の文化を知ってくれたことや、その会話を通して運転手さんと仲良くなれたことがとても嬉しかった。私は相手に自分のことを伝えよう、相手のことを知ろう、という互いの気持ちがあれば、民族や文化の違いの壁を越え、通じ合えることを知った。

シンガポールは今、多民族国家でありながらも差別や争いが無く平和な国として世界からも注目されている。シンガポリアンは皆、宗教や文化も「同じである」ことを求めず、互いの価値観をよく理解し尊重していた。これこそが、この国が平和でいられる大きな理由だろう。今でも世界では沢山の差別が残っていて、日本でも今、外国人労働者や国際結婚の増加で外国人やハーフの子どもが増えている。そのため学校での差別やいじめが沢山起きている。「お前だけ肌の色がみんなと違う。」「キモイ。」「外人は国へ帰れ。」民族や人種に対し正しい理解をしないと、偏見を持ち、いじめにつながってしまうのだ。

世界には様々な民族や人種がいる。しかしそれを統一しようとして争ったり、偏見を持って差別するのは間違っていると思う。「みんな同じ」じゃなくていい。それぞれが素晴らしい一人の人間なのだ。私はシンガポールの生活の中で、自分のことを伝えようとする意識や相手のことを知ろうとする気持ちを持つこと、互いを正しく理解し尊重し合うことの大切さを学んだ。これらを一人ひとりが意識すれば、自分の視野がどんどん広がり、こうした差別は減っていくだろう。私もそれを意識して、シンガポールで出会った人達のように、視野が広く柔軟な考えができる大人になりたい。

多様性に満ちたこの世界が、差別のない明るい未来になることを願っている。